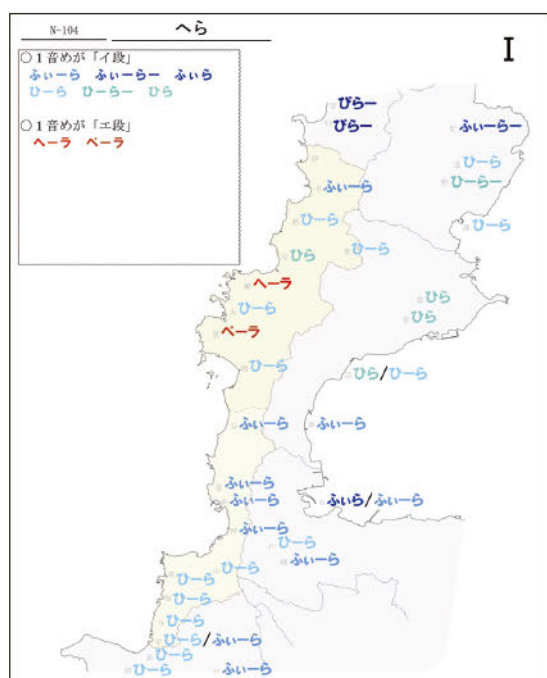




地で話されていることばを記した地図）が図1です。名護市幸喜や喜瀬の語形と恩納の語形が同じ語形の**パイ**になっています。このように恩納は恩納村のなかにありながら、名護市以北のことばの発音と似た特徴を持った「言語の島」の集落です（周りとは異なる特徴を持つ地域を言語学では「言語の島」という）。また、恩納以外では**ふあい**と発音する地域が谷茶から仲泊にかけてまとまって分布しています。沖縄本島中南部では**はい**になる集落が多く、**ふあい**とは**はい**の語形が混在しているのも恩納村方言の発音の特徴の一つです。つぎに示す地図は土を掘ったり、根を切ったり、土を被せたりする道具「へら」の言語地図です（図2）。

地図を見ると恩納村の多くの地点で**ひーら**や**ふいーら**が使われ、安富祖が**ひら**になっています。沖縄諸島や宮古八重山諸島ではeがiになる現象（言語学では狭母音化といいます）がおきるため、母音がiになる**ひ**や**ふい**が多く見られます。それに対し、恩納の**ペーラ**と瀬良垣の**へーラ**は他地域にはない母音がeになる**ペーラ**、**へーラ**を使っています。この地図から恩納と瀬良垣の人々の行き来やつながりが強いことが分かります。

ラになり、東海岸の金武町伊芸や宜野座村惣慶と同じ語形になります。東海岸の宜野座村屋嘉の**イレーラ**もほぼ同じ語形であり、現在こそ別の行政区ですが、かつては同じ旧金武間切のなかでの人の行き来が読みとれます。旧読谷山間切の谷茶でも宜野座村屋嘉と同じ**イレーラ**を使用しています。これは間切を超えた交流が隣接した集落に影響を及ぼしたと考えるよいでしょう。恩納村以外の地域で使われている**イララ**や**いなな・いな・いな**の分布を見ても近い集落間で似た語形になつており、「鎌」の言語地図からは「生活圏」のような交流の歴史も見て取れます。

このようにしまくとうばは祖父母世代よりも上の世代（ご先祖様たち）の人の行き来や地域ごとの特徴が残る貴重なことばです。みなさんの周りにいるお年寄りから少しでもことばを受け継ぎ、将来へ残していきましょう。

恩納村史言語編では、ここで紹介した言語地図の他にも単語の意味や例文についてまとめた類別辞書、ことばの特徴全体についての概説等もととりあげます。どうぞご期待ください。